

## 保育園サーベイランスの活用

### 「入力は習慣となって、毎日の朝の意識が変わりました」

茨城県鹿嶋市・佐田保育園園長 栗原文子

佐田保育園主任 額賀真紀子

平井保育園主任 田口さつき

大船津保育園主任 大河昌子

聞き手 国立感染症研究所 菅原民枝

茨城県は全県で保育園サーベイランスに取り組んでいます。今回は、鹿嶋市の保育所の先生方に集まっていただき、日頃の様子をお伺いしました。

#### <保育園サーベイランスを使っているかがですか？>

##### (1) 「毎日の子供のようすを確認することがしやすくなりました」

先生のご意見は、一見、感染症対策に直接結びついていないように聞こえるかもしれませんが、ところが、このご意見は、短いのですがとても大事な本質があります。サーベイランスの本質は、入力が目的ではなく、そこから得られた情報を使って対策することだからです。

日頃から保育所の先生方は園児の顔色や体調の具合をよく見てくださっています。何かいつもと違う状況になっていることを早く察知してくださっています。これまでよりもそうした『観察』がしやすくなったということです。なぜ、観察がしやすくなったのでしょうか？このことは、保育園サーベイランスの画面から直接得られる「データ」そのものではありません。画面から得られる「データ」は、たとえば下痢や嘔吐でのお休みの園児が普段よりも少し多くなってきたことを示すグラフです。周辺の保育所で「感染性胃腸炎」と診断された園児が多くなってきたことを地図が示しています。そうしたグラフや地図で視覚的に変換されたデータを受け取って、それを見た先生自身が頭で整理をして、言い換えると、「データ」が先生によって分析・解析されて、「情報」とされているからです。

さて、先生の頭の中での「情報」とはどのようなもののでしょうか？下痢や嘔吐の症状を有している園児が増え始めているという「データ」があつて、周辺地域でも感染性胃腸炎が増え始めているという「データ」もあるので、園内で下痢や嘔吐の症状を有している園児は感染性胃腸炎かもしれない、一人の発症者があると今後二次感染、三次感染を起こすかもしれない、だから対策を始めなければいけない、と考え始められるでしょう。この「対策を始めなければいけない」と考える段階で、データは情報になっています。

情報は対策に有効に役立ちます。情報が無いまま対策をする場合と比べると、目的をもって、効率的に対策できます。具体的には、まずは発生のあるクラスの担任に伝えて、健康観察をしっかり行う。下痢をしている園児はいないかどうか。嘔吐をした園児がいたら、すぐ対応できるよう嘔吐処理セットを用意しておく。処理セットに必要なものは揃っているか。手袋、マスク、ガウン、新聞紙、消毒剤等前回使った後から補充されているかどうか。子どもが触らないような位置に配置してあるかどうか。しかも、すぐに使えるところ

に配置してあるかどうか。同時に発生するかもしれないので、2 つ以上用意してあるかどうか。処理方法を複数の先生が知っているかどうか。こうした事前準備の確認をすることができます。データは情報になると、次なる行動に変化をもたらします。データのままで行動に変化はもたらされません。情報になって、その情報を必要とする人々に伝えることができるからです。

- 「全園児の健康管理の把握と流行している病気を職員に伝達することで園全体の様子を全職員で共有できています。」
- 「近隣地域の流行状況がわかるので、自園で流行がある前に、職員・保護者への注意喚起することができました。例えば、視診、検温、手洗い、消毒、マスクの使用などの予防対策の準備ができました。」

こうしたご意見を伺って、本当にデータが情報になっていると確信しました。鹿嶋市の保育所の先生方は、サーベイランスの本質を理解されているからこそ、活用がうまくいっていると思います。

## （２）「入力をするによって、朝の意識がかわりました。」

サーベイランスによって保育所の先生方自身にも、変化がもたらされました。流行していることを知って、視診をより丁寧に深く、園児を観察するようになったそうです。そして、以前は保護者や園児から聞き取ることが難しかったことも、園の先生のほうから話を向けやすくなったそうです。

今年も 2011 年並みに手足口病が大流行しました。いつもは食事をしっかり食べる園児が、朝食を残していると保護者から聞いて、また園での昼食を残しているのを見て、食べない状況が食べることができない状況だと理解できるのは、周辺地域での手足口病の流行を知っているからです。食事を残した園児に、「なぜ残すの？」と問いかけるのではなく、「食べる時口が痛いのか？」と聞くと、お話ができる年齢であれば、舌が痛いとか、飲み込むのが辛いといったことを話してくるでしょう。手足口病であれば、口内に発疹ができ、食事ができなくなることがあります。手のひらや臀部にも発疹が出ている可能性があります。そうした観察が、担任の保育士の先生がしっかりできるようになったとのこと。つまり、保育士の先生方にも変化をもたらしました。そして、園全体での職員、担任の先生の協力があり、意識が向上したとのこと。

なぜ先生の朝の意識が変わったのでしょうか。入力することが目的であれば、入力が終わったことで朝の意識まで変わることはないでしょう。先の通り、先生は、入力が目的でない、ことをよく理解されています。つまり、入力で終わりなのではなく、その次のステップがセットになっているのです。

入力の画面が終わると、システムでの「参照」のボタンと、「地域の状況」のボタンをクリックします。参照のボタンで、今日の園内の様子が一目でわかります。異常がある場合には（急に欠席者が増えた場合）、画面上では黄色に反転しアラートが付きまします。アラートが表示されたらグラフを確認します。地域の状況のボタンを押すと鹿嶋市の地図が表示され、症状ごと、疾患ごとの地図が中学校区で示されます。感染症は家族内感染による伝播が多いと考えられていますので、園の周辺としてきょうだい関係が完結している中学校区が適しています。こうした入力を朝に行うことで、「データ」から「情報」になって、意識が変わってきたのだと思います。

入力そのものは習慣になったと、どこの保育所の先生もお話してくださいました。サーベイランスを導入する前は、新しい取り組みに対する不安感が大きいものです。入力が習慣となってしまうと、あとは「データ」を収集して「情報」として使うことが習慣になります。

- 「園全体・クラス毎の状況が増加傾向にあるか、減少傾向にあるのかを把握できました。」
- 「流行している病気を保護者に知らせることで早めの対策ができるようになりました。」
- 「子ども・職員の健康状態の把握ができるようになりました。」
- 「早退児も入力するため細かく観察するようになりました。」

こうした取り組みができるようになったのは、サーベイランスによる効果です。サーベイランスは対応をするためにあります。急な欠席者の増加がグラフで確認できれば、そのグラフを印刷し、クラスの担任に渡し、クラスの保護者に情報提供します。周辺地域での流行が地図で確認できれば、地図を印刷することもできます。

- 「近隣の小学校で、どのような感染症がどの程度流行しているかがわかるため、兄弟・姉妹のいる園児は特に気をつけて健康観察ができました。」
- 「近隣地域の流行状況から、保護者に対し事前に情報提供ができました。」
- 「自園の過去のデータを見ることで、どの時期にどのような発症者が多いのかを知ることができ、事前に職員・保護者に園便り等で周知することができました。」

サーベイランスを続けていると、こうした対応策に向けての「データ」の使い方も習慣化されてきます。早めに対策をすることをも、習慣化されてきます。こうした取り組みが集団発生を防ぐことにつながります。そして子どもを感染症から守ります。

### （3）「入力の仕方（病気別）で判断ができるようになった。」「感染症（病気名）を覚えることができた」

感染症に対して職員の意識も向上している様子が分かります。毎日入力することで、知らないうちに、感染症に対する知識が蓄積されているのです。保育所では、感染症以外にも取り組まなければならない課題はたくさんあります。しかし、ひとたび感染症が流行すると、そのことに時間も労力もかかることから、感染症対策はしっかり行いたいという気持ちはどこの保育所にもあります。そのためには、感染症対策の知識をしっかりと持ち、日頃からの予防対策の体制が必要になります。体制は、サーベイランスを取り組むことで実現できます。

もし、サーベイランスのやり方が、A保育所、B保育所で違った方法であったとすると、どうなるでしょうか。サーベイランスのデータの解釈が異なってしまうと、サーベイランスの結果を共有するとき解釈ができなくなります。皆で同じ方法でするからこそ、情報が共有されて、利用価値が増すのです。そのときに、症状と疾患の両方でサーベイランスをすること、疾患は診断された初日でサーベイランスをすること、こうした同じ方法でするからこそ、「データ」は「情報」として利用価値が生まれるのです。そのことを、サーベイランスをすることで先生方自身が気づいてよかったこととして認識してくださいました。

園内でサーベイランスをすることで感染症に関する意識も知識も向上でき、その上で活用されているので、保育園サーベイランスは、より大きな効果があがると思います。

また鹿嶋市では以前にもお伝えしたように、行政からの「お知らせ」がとても活用され

ています。それがとても役に立つと保育所の先生は揃っておっしゃいます。そして行政との連携がしやすくなったとおっしゃっていました。保育所では、まずは自分の保育所内の状況を把握することが大事ですが、それぞれの保育所は、自分の保育所内でのことで精いっぱいである時に、客観的な視点で注意することを伝えてくださることで、安心感につながります。

### <まとめ>

今回、鹿嶋市の保育所の先生方にお話を伺ったあとに、担当課（鹿嶋市保育園所管課吉井聡さん）にもご意見をお伺いしました。

「どの先生も、保育園サーベイランス導入前は、操作に対する不安、入力の手間などが気になられていたようです。早朝から夜まで、幅広い年齢帯の児童をお預かりするなかで、先生方は感染症以外にもさまざまなことの対応に追われています。しかしながら、一旦導入をし、保育園サーベイランスに慣れ親しんでいただいたあとは、保育園サーベイランスのメリットを様々な面で享受されていらっしゃるようです。操作に対する不安や入力の手間などは杞憂に終わり、現在は、自園の状況のみならず、きょうだい関係の小中学校、ひいては地域全体の動向などまでを把握され、幅広く感染症対策に役立てられています。」

保育園所管課も、保育所側の業務のことを思い、最初は入力そのものが心配であったと思います。しかし、そうした気持ちも受け止め、理解し、その上で応援して下さっていることがよくわかります。

「保育の現場では、保育園サーベイランスは『感染症の発生状況を知る』ためや『データの収集』だけのものではなく、日ごろからの感染症対策に結びつく非常に有効なツールだということを認識することができました。今までも、先生方はご自身の経験や自助努力によって、保育所における感染症対策に取り組まれてきましたが、保育園サーベイランスによって『情報を得て』『知識を深め』『対策を施す』などの取り組みに厚みが増していると思います。」

こうした保育園所管課のご意見を伺うと、保育園サーベイランスの効果は、行政との連携のみならず信頼関係も深まることにもつながっていると思います。鹿嶋市保育園所管課では、保育所側の取り組みに対して、吐しゃ物の処理キットや自動手指消毒機など購入して各園に配置したほか、保育園サーベイランスで得た情報を含めて、感染症に関する情報は積極的に提供されています。

最後に、これから、感染症の冬の流行シーズンを迎えます。保育園サーベイランスの様々な有効性を再認識するとともに、今回保育所の先生方のご意見をお伺いして、当初、想定していなかった効果についても新たに確認することができました。今後もサーベイランスを有効にご活用いただけるように、さらなるシステム環境の整備に努めるとともに、より多くの保育園にサーベイランスをご導入いただき、感染症対策にお役立ていただきたいという思いが深まりました。

※「保育園サーベイランス」を導入した茨城県鹿嶋市の取り組みについて、本誌 2012 年 12 月号に掲載しております。